

I. 日 時： 平成28年3月7日（月） 12:30～14:30

II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室

II. 出席者： 神原委員長、片岡委員、藤井委員、花田委員、奥村委員、
岡崎委員、森實アドバイザー

（事務局 井端事務局長、平田職員、竹苗職員）

III. 検討事項

今年度の本委員会の研究課題となっている世界基準を目指した歯科医学教育の提案として、健康医の育成を目指した他分野連携によるフォーラム型授業の構想について引き続き検討した。

1. フォーラム型授業の提案

（1）背景

平成24年に厚労省の健康施策「健康日本21」では疾病医療から予防医療へのパラダイムシフトの必要性が明示され、米国歯科医学教育学会（ADEA）のポリシーステイトメントでも利便性のある健康管理が指摘されていることから、従来の臓器型教育モデルから健康医を育成するモデルへの転換、歯科医学教育の新しい役割を確認した。また、多面的な視点から論理的に分析する能力や態度としてのクリティカルシンキングの重要性が指摘された。なお、日本では国家試験対策の知識詰め込み型教育中心のため、クリティカルシンキングの実施は低くなっている。

患者中心の医療としていくためには、生活習慣病予防、介護予防、地域などのトータルケアシステムを医療、行政、国民が連携して確立する必要があるため、医学、歯学、薬学、看護、栄養、介護、法律、行政などの多職種連携システムを考えていく必要がある。また、学生の段階から多職種連携によるチーム学修によるクリティカルシンキングによる学びをさせていく必要がある。

（2）フォーラム型授業

授業は、多面的な視点で物事を捉えて他者との視点の違いに気づき、本質を見抜いていく発想型の授業で、具体的には以下の流れで行う。①人の健康をテーマとして、医療・福祉・保健・行政など多職種の有識者による議論（フォーラム）を行い、ビデオ収録する。②それを教材として学生が視聴した上で、多分野の学生によるグループ内・グループ間の議論を行う。③議論を通じて解決策をグループで提示する。④有識者からの意見・評価を得ながらeポートフォリオで省察を行う。⑤映像の視聴や学生の議論はWebなどのICTを活用し、キャンパス間や大学間でも実施できるよう学修環境を支援する。

2. 意見交換

・フォーラム型授業のイメージの図

有識者が議論しているビデオを入れ、学生がフォーラムを行う前に、教員が有識者の意見、主張を咀嚼し、学生が共通理解できるようにする。

学生間のフォーラムは、最初は医療系だけにし、医療人として必要なことを学び、次の段階として医療系だけではない分野も入れたものを実施するよう、図示する。

看護や介護福祉は、患者側に立った考え方で医歯薬分野にとってまったく逆の考え方になる場合もあるので、大いに学ぶ効果がある。

- ・法学もサイエンスなどの立場で考えることも含めることにしているが、教員も学生もいきなり異なる分野から始めるのは難しいので、段階を経ることにしている。
- ・有識者については、最初から医療系以外の分野も含めた議論をしていってよいと思われる。
- ・フォーラムを通じて政策、立案まで医療人も考えていく教育を行っていく必要があるが、現状では学生にはハードルが高いので、どのような課題があり、そのための手法や戦略があるのかを学び、理想案を考える学び将来につなげていく教育になるのではないかと。
- ・学生は一人ではできないが、多職種が集まって考えていくと今までと違う考えを知り、案を生み出していくことを学生が認識でき、卒後につなげられる。
- ・地域包括ケアだけでなく、外国人への対応も含まれてくるので、メディカルツーリズムで考え

ていかなければならない。

- 兵庫県の健康づくり協議会8020審議会の資料を提供したのは、一つの県だけで環境が様々で地域格差がかなりあるため。健康づくり推進実行計画の推進条例に定めた分野が5項目あるが、歯及び口腔の健康づくりだけ予算がかなり少ない。大阪府など他の都道府県も同様である。生活習慣の一部として、虫歯が少ない地域には予防にさらに力を入れてもらえるようもっと予算をつけるべきである。
- 具体的な授業の方略、授業内容を整理する。例えば、有識者で検討すべき基礎知識の内容なども含めて行う。
- 学年は初年次ではなく、3年次以降とし、臨床教育も行われていることも想定する。
- おおまかなフレームは歯学で考えるが、他分野とともに検討していったほうがよい。
- テーマは低栄養よりも健康予防を社会に定着するにはどうすべきかなどのほうが検討しやすいのではないか。
- 口腔ケアは物を咀嚼し食べる以外の健康問題につながる事なので、高齢者だけでなく広い視点で考えさせることができるのではないかと。
- eポートフォリオを活用している大学が少ないので、ノウハウから昭和大学の例にならって検討していくことも必要。FDにつながる。

3. 次回までの課題

各委員からフォーラム型授業の具体的なテーマをメーリングリストで収集する。

4. 来年度のスケジュール

来年度の本委員会のスケジュールについて、以下の通り事務局より提案した。

平成28年度委員会は、フォーラム型授業の構想を1回目ではほぼ完成させ、2回目は医学と合同委員会を実施し、3回目と4回目は他分野との合同委員会とし、分野連携による対話集会を企画し、対話集会を実施したい。また、29年度にはできればフォーラム型授業を試験的に実施したい。

5. 次回委員会

- ① 5月16日(月) 10:00より開催し、フォーラム型授業のテーマ設定し、それを踏まえてシナリオ作り(授業の方略、授業内容)を行う。
- ② 各分野の有識者に健康に対する考えや課題をA4×1枚程度にまとめて紹介いただく。委員を通じて関係者に依頼し、次回までに用意しておく。

以上